

R5小・中連携研修会【東桜島小学校・東桜島中学校】

I 共通実践目標

A【学力向上】

□お互いを認め合い、「学び合い」を深める授業づくりの推進

B【生徒指導】

□立ち止まって元気なあいさつの推進

C【特別支援】

□学校で楽しく過ごせる、心と身の周りの環境整備



II 協議内容

A【学力向上】部会

(1) 現状（課題・成果を含む）

小学校

- ・ 図やグラフを用いた文（条件を使って書く）の書き方を向上させたい。
- ・ 加法や乗法などの基本的な計算力を定着させたい。
- ・ 学力差があるため、学び合いが一方向的に教える活動になってしまう傾向があるので、双方向の意見交換ができるようにしたい。
- ・ 「使ってみよう」～考えるための言葉～（対話技能系統表）を使い、言語技術能力を高めたい。
- ・ タブレットの思考ツールを活用した授業を研究していきたい。

中学校

- ・ 数学科でのデータの活用能力を高めたい。
- ・ 国語科では、知識を問う問題に対応することができるようにしていきたい。
- ・ 英語科では、相手意識をもって、会話の意図まで理解し、思考することができるようにしていきたい。
- ・ 少人数のため話し合う雰囲気を作れず、学び合いが上手いかない場面が多いので、相互に考えを出し合い、高め合う授業づくりを目指したい。



(2) 共通実践事項についての協議

□ 学び合いの手立て

- 1 単元の流れ（計画）の提示する。
- 2 一人一人が予想する（考える）場の設定する。
- 3 状況に合わせて、書いて考えを持たせてから活動させる。
- 4 教師がモデルとなり、学び合いに参加する。（雰囲気づくり）

□ 今後身に付けさせたい力

- 1 粘り強く、あきらめずに学習に取り組む意欲
- 2 読み解く力（テストの分量に対応するために必要）
- 3 自己肯定感を高める授業

(3) 指導助言

- ・ 育成を目指す資質・能力の三つの柱（知識・技能、思考力・判断力、表現力等）
- ・ 豊かな人間性を培う学習
- ・ なぜ勉強をしないといけないのか？
→自分の頭で筋道を立てさせ、どうしたらよいのかを考えて選択できるようにする。

B【生徒指導】部会

(1) 現状（課題・成果を含む）

小学校

- ・ 学校生活を落ち着いて過ごしている児童が多く、自分で感情をセーブできる児童が増えた。
- ・ 安全対策として、遊ぶ場所を校庭に限定している。
- ・ いじめ1件、不登校・長期欠席0件である。
- ・ 「四合(しあわせ)運動」やありがとうカードを実施することができた。
- ・ 相手を見て立ち止まって挨拶をする児童が少ない。
- ・ 靴のかかとを揃えて並べる児童が増えている。

中学校

- ・ 学校生活を落ち着いて過ごしている生徒が多く、大きな問題はない。
- ・ 様々な生徒同士でのトラブルは起こるが、今は改善されている。
- ・ ネットを使用する長さでの課題がある。また、メディアリテラシーを学び合う機会をつくっていく必要がある。
- ・ 校則を少しずつ見直し、変えていくようにしている。(細かい規定を無くすなど)



(2) 共通実践事項についての協議

小学校

- ・ 立ち止まったの挨拶はできていない。(元気な挨拶であるが、歩きながら走りながら)

中学校

- ・ 正門での挨拶が良くなった。校舎内では、立ち止まったの挨拶ができていない。
- ・ 周りの様子に合わせて行動する様子が見られ、主体的な活動が苦手な生徒がいる。
- ・ 人前に入る経験が成果となっている生徒もいる。



(3) 指導助言

- ・ 保護者との連携を十分に図っていくことを大切にしてほしい。
- ・ どうしたら楽しい学校にしていくことができるかを大切にしてほしい。
- ・ テレビの視聴時間が長く、学習時間が非常に短い生徒がいる。生活スケジュールを考え直す機会を設けていきたい。

C【特別支援】部会

(1) 現状（課題・成果を含む）

小学校

- ・ 感情を上手に伝えられないときは、感情カードを活用している。挨拶は良い。

中学校

- ・ 朝のうちに気持ちを整えさせ、乗らせるようにしている。挨拶は難しいことが多い。

(2) 共通実践事項についての協議、指導助言

- ・ 五感に配慮すること(ユニバーサルデザイン化)
- ・ UDの配慮。思い込みではなく、多角的な配慮を行い、子どもたちに接するようになる。

